



第 3762 図



第 3763 図



りしりすげ

一名ましけすげ

*Carex scita Maxim. var. riishirensis Kükenth.*

北海道の諸高山、南千島、樺太の高山性草原に生じ、高さ 30cm 内外に達する多年生草本、概形シロウマスゲ（本州中部以北の日本海沿岸の高山に生ず）に似ているが、穎は短かく、逆に果囊は巾広く且つ明かな短嘴を有する傾向を持ち、小穂全体として狭い穎の後に果囊が明らかにはみ出して見える形となるので区別できる。利尻、増毛共にその産地に因む。本州中部の南アルプスを中心とした高山帯には、果囊の頂部が穎に向いた側に曲り、屢々横に皺を生じ、先端の裂け目は、そこへ落ち込んだ恰好になる一変種ミヤマアソボスゲ (*var. scita*) を生ず。これはリシリスゲの命名上の基本型である。

しこたんすげ

*Carex scabrinervia Franch.*

北海道釧路、根室、色丹、礼文等の海岸に近い岩場の草地に生ずる多年生草本。茎は高さ 50cm 内外で群がり立ち、全体に強剛、3 稜形で上部ざらつく。葉は基部に濃紫褐色の鞘状葉数個を伴い、巾 5mm 内外、裏は白味勝ち。初夏に 3-4 小穂を頂に近くつけ、下部の 2 個には長い葉状苞を有する。小穂は、頂は雄性、側方は雌性、時折その上半部が雄となることあり、巾 1cm 内外の卵~円柱形で甚だ黒い。穎 (右) は倒卵状楕円形で粗雑な長芒を生じ、果囊 (右) は密につき、穎と同高で広楕円形、5mm 長、扁たくつぶれ緑褐色、へりには粗雑な毛状の鋸齒を上半に生ず。リシリスゲの体強剛にして果囊さらに広き近似種である。色丹は産地を示す。

まめすげ

*Carex pudica Honda*

東北地方南部から北関東、中部山地をへて関西にいたる間の丘陵地の林下、乾き気味の地に生える小形の多年生草本。雌穂がすべて葉間に根生するが如くにみえる点で著しい。その点でハガクレスゲ (*C. jacens C. B. Clarke*) に似るが、彼にあっては一部の雌穂は葉叢上に現われるが、本種では雌穂のみ長梗を以て葉中に高く抽くの差がある。春に開花、雌花穎は緑背、赤味のある褐色の倒卵形で長さ 3mm、先端急に尖る。果囊は稍と直立し、細い紡錘体でほぼ穎と同長、疎に短毛がある。

ぬかすげ

*Carex mitrata Franch.*

関東から東海道の暖地の林縁路傍等に多い多年生草本で、四国九州にもあるが少ない。高さ 15cm 内外、ひどく密生した株立ちとなり、匍枝はない。根元には褐色の鞘状葉を伴う。葉はヒメカンスゲに似て、暗緑色、径 2mm 未満、質は薄いが稍と硬く、ざらつき、開花時には低い花後に伸びる。花序は 4 月に伸び、瘦せて細く、頂生の雄穂は暗褐色で線形、隣りの雌穂と並びそれよりも低いことがある。雌花穎は倒卵状楕円、縁は白く緑背、時に芒が長いものをノグメカンスゲ (*var. aristata Ohwi*) といい、本図はそれである。果囊はそれより超出し、2.5mm 長の紡錘体で青味ある緑色、微毛あり。和名は果が細かいことをぬかたにたとえた。

ちゃしばすげ

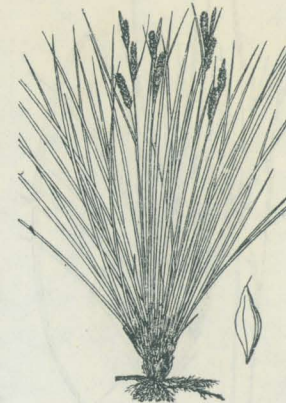
*Carex verna Chaix var. microtricha Ohwi (=C. microtricha Franch.)*

樺太及び北海道から北陸地方へかけて分布し、海岸砂丘或は山中の砂地に見る多年生草本。基本種は北半球寒帯にひろく分布。砂中に暗褐色の鱗葉を有する匍枝を長く引いてひろがり、株は離れて散生するが広い面積を蔽う。一見シバスゲに似るが、該種では雌穂が緑色、果囊は毛を生じ、瘦果の頂部にある花柱の基盤は顕著に円錐形を呈するが、本種では穂は栗褐色、稍と不整形、瘦果には毛殆んどなく、また基盤も短かく尖るので区別できる。シバスゲが主に太平洋斜面に多いのも興味がある。和名は茶柴スゲで穂の色に依る。

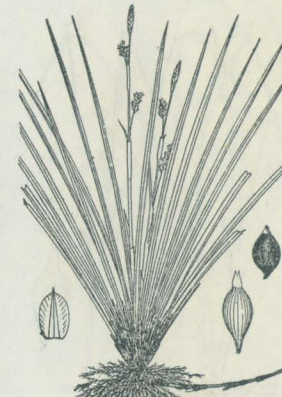
にしのほんもんじすげ

*Carex stenostachys Fr. et Sav.*

中部信越地方から本州西部にかけて普通な多年生草本。林下の多少乾く地に生じ密な株立ちとなり半常緑生である。高さ 40cm 内外、関東から東海道に多いホンモンジスゲに似ているが、それよりも遙かに密集した株となり、鞘状葉は暗褐色でヒメカンスゲに類似、葉は硬くて直線的に立ち、果囊が稍と開出して密に集まり、雌花穎は褐色を帯びるため、雌穂はより太い短柱状で長さ 2cm 黒味勝ちにみえるので区別できる。果囊は 3 稜形の両端に細く尖った卵状楕円体で毛が一面にある。和名は西之本門寺スゲで本州西部に多いことを示す。



第 3765 図



第 3766 図

